



No.055 アフターコロナの一断面 オンライン教員 変わりたくない人たち



日常生活は変えたくないものです。たとえそれが時代の流れや歴史の必然だとわかっていても、変化に対して人は頑強に抵抗します。

しかし今回、ウィルスは抵抗を許しませんでした。コロナが変化の時間を圧縮したおかげで未来社会が少し早くやってきました。オンライン教育もその一つでしょう。

パソコンがそろわないとかWIFI環境がないとか、公平でないとか、できない理由は山ほどありましたが、やるしかありません。

さてやってみてどうだったでしょうか？

まず講義あるいは講演会のようなイベントは、参加者が100人を超えて、普通にライブ（同期型）でやるようになりました。質疑応答はむしろチャットで簡単にやりとりできます。いまやWebセミナーが大流行りですが、遠方での講演は高い移動コストを払わなくて済むので、これに限ります。

非同期型、つまりオンデマンドで録画教材などにアクセスする学習方法は、多くの授業で利用されています。これは著名講師などの優れたコンテンツを使って意欲の高い学生が学ぶ時はとても効果的です。

ただ自習だけで集中力を維持するのは難しい。まして手抜きの教材で課題ばかり求められては学生のモティベーションは上がりません。一方教員の方も慣れない録音録画を使って質の高い教材を作るのに苦労しています。

少人数の授業の場合はWeb会議ツールを使ってほとんど問題ありません。小グループに分けた指導も画面を共有した共同作業もできて、一人ひとりに向き合えます。

ただ学生同士の私語のようなちょっとした横のコミュニケーションは意外に大事で、現場なら簡単ですが、オンラインだと何か工夫が必要です。



谷口博文の政策イノベーション

Date : 2020年 6月13日

要するに、オンラインツールも日々進歩しています。教員も試行錯誤しながら自分自身学ばなければ、次の時代を生きる子供達を教えることはできません。

しかし学校現場では、クラスによって差がつかないように、デジタル対応のできない先生に合わせて導入を見合わせているところもあるとか。

もちろん対面式も必要です。しかし変わりたくない人に合わせて社会が進歩しないならば、日本は終わってます。